

知床ヒグマ対策連絡会議の対応状況

1 令和6年度第2回知床ヒグマ対策連絡会議の開催

- (1) 日時：令和6年11月20日（水）13:30～16:20
- (2) 場所：斜里町ゆめホール公民館
- (3) 関係機関：環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団

2 概要

(1) 今年度のヒグマ出没状況について

今年度の10月末時点におけるヒグマの目撃件数、対応件数、有害捕獲頭数をそれぞれの町ごとに集計。斜里市街地周辺の農地での出没が例年と比較して多い傾向。羅臼町では、目撃件数は過去の平均値よりも低い、市街地への侵入件数は4月から6月にかけて昨年度を上回るペースで発生。7月以降は落ち着いている。標津町では、例年の半数ぐらいの目撃件数であるが、市街地への侵入は累計昨年より1件多い状況。

ヒグマ管理計画目標の達成状況については、多数の項目が昨年度の大量出没の影響により目標の未達成が確定。

その他、利用者によるヒグマへの接近事例の対応に係る協議、意見交換。

(2) 令和6年度アクションプランの実施状況及び令和7年度アクションプランについて

各機関において現時点のアクションプランの確認を行い、令和6年度における各方針の実施状況をアクションプランに着色するほか、実態に合わせた修正及び令和7年度における現時点の予定を追記して作成。

(3) ヒグマ DNA 業務の整理について

前回、問題提起したヒグマ DNA 業務に係る今後の方針を整理。

- ・行政の活用目的として、問題個体が捕獲されているかどうかの追跡が最重要
- ・目的を踏まえて予算枠の範囲で検体数の指定
- ・費用分担について、令和7年度は環境省・斜里町・羅臼町・標津町・知床財団がそれぞれ予算を計上するが、今後の継続性も考慮し対応を協議。
→指定管理鳥獣交付金や鳥獣被害防止交付金等の活用の可能性について引き続き検討する必要がある。

(4) 知床半島ヒグマ管理計画の見直しについて

第3期知床半島ヒグマ管理に向けたフレームワークを作成し、総個体数および問題個体数（軋轢の状況）に応じた対応策を定めるための協議を実施。

(ポイント)

- ・第2期知床半島ヒグマ管理計画の管理方針に、北海道ヒグマ管理計画で検討されている個体数管理を導入
- ・フレームに応じたゾーニングごとの対応内容
- ・実態に即した管理の方策の改正 等

(5) 北海道ヒグマ管理計画改定の概要について

北海道ヒグマ管理計画（第2期）改定（素案）により概要の説明

- ・令和6年度中に一部改定し、計画の期間は変更しない。
- ・個体数指数が共存水準を上回り、あつれきの低減を図る必要がある場合は、「あ

つれき低減措置」として個体数管理を実施する。当面、すべての地域において、「あつれき低減措置」の管理を実施する。

- 捕獲目標を地域ごとに設定し、年度ごとに評価・見直しを行う。
- ヒグマ管理に係る人材育成として、春期管理捕獲を実施し、その枠組の中で捕獲従事者育成を実施予定。